

研究者名：獨協大学 飯島優雅

2023 年 3 月 12 日

TEAP と大学英語カリキュラムの学習目標

<概要>

TEAP が大学英語カリキュラムでの英語習熟度別クラス編成のためのプレイスメントテスト、あるいは学習・教育効果測定のためのツールとなりうるかを検討するために、大学英語カリキュラムの学習・教育目標と TEAP が測定する英語技能の間にどの程度共通性があるのかをまず明らかにする必要があります。本研究では、予備調査として、一般学術目的の英語技能（以下 EGAP）の訓練を教育目的とする私立大学の共通教育課程英語カリキュラムにおける Can-do List を一例として取り上げ、公開されている TEAP の Can-do Statements と比較した。またこの英語カリキュラムで 1 年間学習した大学 1 年生 23 人にオンライン TEAP を受験してもらい、このテストの大学の英語授業との関連性について彼らの感想と意見を集めた。公開されている TEAP の Can-do Statements の項目数と学生回答数がかなり限られているため結論づけることはできないが、対象となった英語カリキュラムの目標とする英語技能の学習と TEAP の試験内容について、ある程度の共通性がある可能性を示す結果となった。

<はじめに>

高等教育機関の外部質保証、内部質保証が話題となって久しい。学士課程の多くの日

本人学生が必修として履修する英語科目または科目群（以下、カリキュラム）の教育でも、質保証や質向上について議論や研究の発展が望まれるところだが、共通教育課程における学術目的の英語教育（EAP）に絞った研究では（飯島他, 2016; JACET EAP 調査研究特別委員会, 2018）、国内大学の EAP カリキュラム運営担当者が、様々な質保証の取り組みを実施していることが示されている。例えば、プレイスメントテストとしての外部試験の導入や、教育効果のモニタリングを目的とした英語カリキュラムの入口と出口の試験としての TOEFL®、IELTS™、TOEIC®、あるいは独自試験の活用もその一例である。

英語カリキュラムの教育効果の評価の視点や測定方法は多様だが、外部英語試験の利用は大学内外にもわかりやすい選択肢の一つであろう。ただし、幅広い英語習熟度から成る日本人学生を対象に EGAP 技能を指導する大学では、TOEFL®や IELTS™の難易度が高すぎるため、クラス編成目的に適切なデータが出にくいという声もあり、既存の外部試験が十分に教育現場のニーズに対応できていない現状もある。

このような国内大学の英語教育事情に対応する EAP 技能を測る試験の候補として、アカデミックな場面での英語運用能力を測る TEAP が挙げられる。ただし、TEAP は

下の引用が示すように、高校生向けの大学入試を主目的とした試験であることから、大学入学後の利用に適しているかについては、様々な視点や教育現場で検証されるとよいだろう。

TEAP および *TEAP CBT* は主に高校生を対象とした大学入試を想定して開発されております。テスト構成は日本における「大学教育レベルにふさわしい英語力」を測るうえで適切な設計となっており、テスト内容はすべて大学教育（留学も含む）で遭遇する場面を考慮して作成されております。難易度の目安としては、英検[®]準2級～準1級程度で、日本の高校生の英語を測定するのに最適なレベルとなっております。（日本英語検定協会、TEAP の特徴とメリット）

<研究課題>

本研究では、筆者の勤務する文系私立大学の共通英語カリキュラムを事例とし、TEAP の Can-do statements が大学の EGAP カリキュラムでの学習・指導目標との程度共通性あるいは関連性があるかを検討した。

<研究方法>

まず、公開されている TEAP Can-do statements (CEFRA2, B1, B2 のカテゴリーごとに各言語技能2つずつのサンプル能力記述文) (日本英語検定協会, 2015) と、獨協大学全学共通英語カリキュラムの Dokkyo EGAP Can-do List (5 カテゴリー: Reading, Listening, Writing, Speaking,

Vocabulary。4 技能の能力記述文は各 40 項目前後) から (岡田・飯島, 2013)、内容や具体的技能に関連する表現に焦点を当てて共通項目を抽出した。

次に、同大学入学後1年間、週に4コマの EGAP 科目 (Academic Reading Strategies, Academic Listening Strategies, Academic Writing, Speaking in Academic Contexts) を履修した国際環境経済学科1年生23人(自己申告で TOEIC 360-550 点) が、オンライン TEAP (Reading & Listening) を受験し、受験後に大学英語科目との関連性などについて回答するアンケート調査を行った。この学生たちの英語力は平均的な日本人大学1年生の英語力と言って良い (参照: IIBC の TOEIC IIP テストデータでは、大学1年生平均点は 471 点)。アンケートは日本英語検定協会が作成したもので、質問項目は13問あった。この中から、本調査では次の4つの質問項目への回答を分析した。

- (1) Q2. 今回受験いただいた試験は、大学の授業で学習する英語力を測定する目的で作られています。本試験の出題内容とレベルは大学の授業に通じる内容であると思いますか？
- (2) Q3. 出題内容について、大学の授業で学習する英語力に通じている点、もしくは通じていない点とその理由を教えてください。※自由記述
- (3) Q4. 出題レベルについて、大学の授業で学習する英語力に通じている点、もしくは通じていない点とその理由を教えてください。※自由記述
- (4) Q5. 今回受験したテストについてよ

かったと感じた点を教えてください
い ※複数回答

<結果と考察>

1. TEAP Can-do Statements と大学英語授業の共通性

公開されている TEAP Can-do statements のうち、Reading と Listening のサンプル項目は次の通り（日本英語検定協会（2015）より抜粋）。共通性あるいは関連性があると考えられる獨協大学の EGAP Can-do List の項目と並べて表示する（文頭に D を付す）。下線部分は分析時に筆者が着目した、類似していると考えられる能力記述の表現を示す。

1.1 Reading

A2 簡単な説明文を理解することができる。

（外国の生活や文化紹介の教材など）

D 文章をざっと読んで主題や要点を把握することができる。

A2 簡単に描かれた図や表から、必要な情報を得ることができる。（調査結果のグラフなど）

D 読む前に、タイトル・見出し・写真・図表から内容や文章構成について推測することができる。

B1 簡単な内容であれば、まとまりのある英文の要点を整理しながら読むことができる。（講義や研修の課題図書や資料など）

D 文章の内容と構成をアウトラインで示すことができる。

D コンセプト・マップやチャートなどを使って文章の内容を図式化し、再整理することができる。

B1 資料などにおいて、図や表と英文を関連させて理解することができる。

D 読む前に、タイトル・見出し・写真・図表から内容や文章構成について推測することができる。

D 文章の数カ所からの情報を関連付けて考えることができる。

B2 英字新聞で社会的な出来事に関する記事を理解することができる。（The Japan Times / The Japan News/ The New York Times など）

D ヘッドラインから記事の内容を推測することができる。

D 導入部分から記事の要点（who, what, where, when など）を見つけることができる。

B2 自分の専門分野に関連した専門性のある資料から情報や考え、意見を読み取ることができる。

D 文章の目的と構成を示す文を見つけることができる。

D 文章全体または一部を要約することができる。

1.2 Listening

A2 相手の出身地や出身校などに関する簡単な紹介や説明を聞いて理解することができる。（場所、人数、特徴など）

D 会話の主要なトピックを聞き取るこ

とができる。

D 会話の登場人物の関係、場所を推測することができる

A2 授業や研修で英語の指示を理解することができる。(例: Answer the question on page 27. / Give some examples of …)

D 先生からの課題、宿題、クラス活動についての指示が理解できる。

B1 興味・関心のある話題に関する講義やプレゼンテーションであれば、その要点を理解することができる。

D 講義の主要なポイントとそれを説明する例やデータなどを理解することができる。

D プレゼンテーションの内容の大意と重要な詳細を理解できる。

B1 授業などでの議論で、その内容を理解することができる。(文化の違い、教育制度の違いなど)

D 会話の主要なトピックを聞き取ることができる。

D 各話者の意見を理解することができる。

D 各話者の意図や感情を推測できる。

B2 講義やプレゼンテーションなどにおいて、図や表と説明内容を関連させて理解することができる。

D 講義の主要なポイントとそれを説明する例やデータなどを理解することができる。

B2 興味・関心のある話題に関する講義やプレゼンテーションであれば、その細かい内容を理解することができる。

D 講義のキーワードとその定義を聞き取ることができる。

D 必要に応じて詳細情報（人名、年、数字、統計データ）を聞き取ることができる。

D 講義の主要なポイントとそれを説明する例やデータなどを理解することができる。

D プレゼンテーションの内容の大意と重要な詳細を理解できる。

以上の比較分析から、Reading と Listening の能力記述文については、公開されている TEAP のサンプル 12 項目と、獨協大学の EGAP カリキュラムの学習・指導目標項目に、ある程度の共通性が認められた。ただし、TEAP の能力記述文は全てが公開されているわけではないため、大学の英語カリキュラム全体の教育目標と合致するかどうかの結論を、この分析結果から導き出すことはできない。

2. TEAP と大学英語授業の関連性に関する学生の感想

2.1 出題内容

まず、質問 2「Q2.今回受験いただいた試験は、大学の授業で学習する英語力を測定する目的で作られています。本試験の出題内容とレベルは大学の授業に通じる内容だと思いますか？」については、「まさに通じる内容だと思う」(8 人)、「一部通じる内容だと思う」(13 人)、「あまり通じる内容で

はない」(2人)、という結果となり、概ね大学授業での学習内容との共通性を感じた学生が多かったことを示した。具体的に、出題内容が大学の授業で学習する英語力に通じている点を尋ねた質問3には、次のような回答を得た（下線は著者による強調）。

- reading では paragraph ごとの読み取り方や形式、筆者が一番言いたいことはどこかなどの読みとりを、授業を通して練習しているので、その力を試せるから。
 - リーディングでは文章の中で重要と思われるトピックに着目しながら読むこと、リスニングでは会話の中で重要と思われる点に着目しながら聞き取ることが大学の授業で学習する英語力に通じていると感じた。
 - リスニングは、大学で学習する英語力に通じていると思う。
 - 英単語と熟語の学習に通じている点があると思った。
 - 会話文やグラフの読み取りなどが大学のレベルに通じていると思う。
 - 教科書と似ている内容だった
 - 授業内でも今回のテストのような表を使った問題などが出てくるから通じていると思う。
- リスニングのグラフ問題は通じていないと感じた
 - 大学ではこうゆう会話文中心の内容はあまりやらないので、内容という面ではあまり合っていない。
 - 普段は TOEIC のリスニングの授業を大学で受けているので、出題内容はかなり違った。
 - 単語レベルが難しすぎた
 - 長文問題はあまり、なじみがない内容だった

興味深い点は、リスニング出題内容について共通性を感じた学生とそうでない学生がいることである。この学生たちは同じリスニング科目を履修しているにも関わらず、学生によって出題内容と授業での学習内容の関連性について感じ方が全く違うことを示す結果となった。

2.2 出題レベル

出題レベルについての感想を尋ねた質問4「出題レベルについて、大学の授業で学習する英語力に通じている点、もしくは通じていない点とその理由を教えてください。※自由記述」では、23人中6人が普段の大学の授業よりも難しく感じた、単語のレベルが難しいと感じた、と回答している。大学授業に通じる難易度であると回答した学生は11人で、次のようにコメントしている。

質問2に「あまり通じていない」と回答した2人に加え、「まさに通じる内容だと思う」、「一部通じる内容だと思う」と回答した学生たちの中にも、質問3の自由回答では、下のように、出題内容が大学の英語授業に通じていない点を指摘した者もいた。

- 普段の授業の中で取り組んでいるテキストに近い難易度で取り組みやすかったため、大学で学習する英語力に通じていると感じた。

- 出題レベルもとても難しいというわけではなく、通じていると思った。
- 簡単なものから少し解きづらいものまで幅広かった。
- 単語のレベルや表の難易度などが英語力に通じていると考えられる。
- 単語のレベルや文法の難易度が、自分のクラスでやっていないようにレベルがほぼ同じであった。（解きやすかった）

2.3 テストの良かった点

質問5「今回受験したテストについてよかったと感じた点を教えてください ※複数回答」への回答結果は表1の通りとなった。学生が特に利点と感じたのは、「コンピュータ上での受験」(17人)、「自身のペースでの解答」(12人)、「簡単な解答操作」(10人)、「短時間の試験」(8人)であった。出題内容に関する項目を利点として選んだ学生は少なかったが、5人の学生が「出題内容が大学生活に役立ちそう」を選んだ。

表1. オンライン TEAP テストの良かった点
(複数回答)

その他	0
出題内容が留学に役立ちそう	0
出題内容が就職してから役立ちそう	1
出題内容が大学の授業に役立ちそう	1
出題内容が大学生活に役立ちそう	5
解答の操作が簡単	10
受験手続きが簡単	6
試験が短時間で終了する	8
自身のペースで解答できる (Rが終わり次第Lへ進める)	12
ヘッドセットを着用して受験できる (集中して受験できる)	7
コンピューター上で受験できる (筆記用具が不要)	17
総計	67

<結論と今後の課題>

今回の調査では、リーディングとリスニングについては、公開された TEAP Can-do statements に明示されている英語技能と、大学 EGAP カリキュラムで指導する英語技能との間に、ある程度の共通性があることが認められた。またこのことは、同カリキュラムで1年間英語科目を履修した大学1年生に対するオンライン TEAP(Reading & Listening)受験後のアンケート調査結果からも確認された。9割近い回答者(23人中21人)が、TEAP の出題内容と出題レベルがある程度大学英語授業に通じているとの感想を持った。

公開されている TEAP Can-do statements の項目数が少ないため、大学英語カリキュラム全体とどの程度共通性があるかを精査することは難しい。ただし少なくとも、本調査に参加した学生たちの英語力が一般的な日本人大学1年生の平均レベルであることを考慮すると、留学を目指す学生を対象にした TOEFL® や IELTS™ よりも、出題内容とレベルの点で、TEAP が一般的な日本人大学生にとって受験しやすいアカデミック英語テストである可能性が高いことが確認された。TEAP が大学入学後のプレイスメントテストとして機能しうるかどうかは、幅広い英語習熟度の学生を対象としたデータを集め、下位レベルから上位レベルまで学生の英語力をクラス編成用に適切に区別できるかを検証すると良いと思われる。

<参考文献>

IIBC 国際ビジネスコミュニケーション協

会（n.d.）. TOEIC Program® Data & Analysis 2022: 2021 年度受験者数と平均スコア.

https://21606703.fs1.hubspotusercontent-na1.net/hubfs/21606703/library/default/toEIC/official_data/pdf/DAA.pdf

飯島優雅・渡辺敦子・マスワナ紗矢子・渡寛法・堀晋也・高橋幸・金丸敏幸・田地野彰・寺内一（2016）. 「日本の大学における学術英語カリキュラムの現状と課題—実態調査結果を踏まえて—」『京都大学高等教育研究』22, 95–98.

岡田圭子・飯島優雅（編著）（2013）. 『「継続的な英語教育改革の過程と成果—学士力育成に資する英語教育の充実」獨協大学全学共通カリキュラム英語部門 2003-2012 年度実践報告書』. 獨協大学全学共通授業科目外国語科目群英語部門.

大学英語教育学会 EAP 調査研究特別委員会（2018）. 「大学英語教育の質保証に向けた EAP カリキュラム実態把握調査」研究成果最終報告書（2014 年度～2017 年度）.

http://www.eiken.or.jp/center_for_research/pdf/bulletin/vol99/vol_99_17.pdf

日本英語検定協会（2015）. 連絡協議会用試験概要説明: TEAP アカデミック英語能力判定試験（ティープ）.

日本英語検定協会（n.d.）. TEAP の特徴とメリット.

<https://www.eiken.or.jp/teap/merit/>

TEAP プレイスメントテスト（仮称）共同研究